

2024年12月期第2四半期実績及び見通し

Q. 中華圏の受注台数が回復しているが、第3四半期以降の受注の見通しはどうか。このまま受注回復が継続するのか。

A. 中華圏の受注は春に伸び夏以降に一旦落ち着く傾向があり、本年も下期は受注台数が減少する見込み。一方、下期は、欧米地域では例年、年末にかけて需要が伸びる傾向があり、日本でも補助金案件の商談獲得を見込んでおり、中華圏以外の地域の販売で補っていく。

Q. 中国のEV関連向けの需要は回復傾向が強まっているか。

A. EV関連向けは中国の需要回復の一因ではあるが、自動車メーカーにより回復度合いにばらつきがある。上期は中国においてEV関連向けに加え、スマートフォンやデータセンタ関連でも需要が急速に回復した。

Q. 工作機械事業の売上高は上期実績(約249億円)と下期予想(245億円)がほぼ横ばいとなるが、第2四半期の業績回復の勢いが鈍化すると予想しているのか。

A. 例年の中華圏の需要動向として、春節から夏前までが受注が伸び、秋以降は減少する傾向があり、本年も同様の傾向を見込む。一方で下期は、日本・欧米ではエネルギー・航空機向けなどの分野で大型工作機械に対する需要増を見込んでおり、通期見通しとしては上期・下期とも同程度の売上を見込んでいる。

Q. 営業利益がV字回復しているが、改善した要因は何か。

A. 主力の工作機械における売上回復に加え、中国の生産体制の最適化による生産性の改善、構造改革による売上原価及び固定費の削減が進展したことにより、売上総利益が大幅に増加したため。
また、新興国のインド等でも販売台数が増加し、営業利益改善に寄与した。

Q. 営業利益増減要因で、売上総利益に含まれる為替や値上げの影響はどの程度か。

A. 為替影響に関して、円安で売上高は前年同期比約19億円の増加。一方、営業利益に対しては為替による大きな影響はなし。売上原価低減に対しては生産効率の改善や構造改革の進展による製造原価及び固定費の削減が寄与。また、一部機種で販売価格を上げたことにより収益性が向上。

Q. 産業機械事業で中華圏の需要が回復しない理由は。

A. 数年前まで中華圏ではスマートフォンの高精度な部品向けが大きな需要として存在していたが、昨年からアジア圏への生産移管が進んでいる。金型生産と比較して成形については中華圏からの移管が容易。

■ その他

Q. スマートフォン・PCへのAI搭載機能により工作機械への需要増加を見込めるか。

A. 技術革新と精密加工の需要増加は関連性が高いと認識。スマートフォン等の新機種開発には新たに金型が必要となるためAIなどの新機能追加、技術革新は当社にとってプラス効果とみている。